

あ お み

第36号

令和5年1月19日

ときわ会加茂支部
広報委員会

TAGAMI BAMBOO BOO

ふるさとを照らす竹あかり



原点 回帰

副支部長 平野 政幸

葵中学校(61年度)

加茂支部から始まった教員人生。これまで学んだことや五年間の副支部長としての経験をもとに、これからの教育界を背負って歩んでいく皆さんに「期待と願い」を込めてエールを贈ります。

この数年間で教育界は大きく変わりました。三年前に登場した「新型コロナウイルス感染症」は、人が人とかかわることを拒んで人と人との間に目に見えない壁を作り、いつしか心の距離を広げることになってしまいました。しかし、それを補うかのように「ICT機器」が普及しました。その躍進ぶりは目まぐるしく、黒板は電子黒板に、ノートはタブレットへ、ホワイトボードはジャムボードへ、集計は全てパソコンが、授業や会議はオンラインで実施されるようになりました。そして、これと並行して「働き方改革」が一気に教育界に広がっていきました。

確かに、今やれないこととやれること、あるいは、やらなければいけないこ

ととやらなくてもいいことなどこの数年、色々な価値基準が見直されています。これまでは「今までが〇〇〇だったから…」という理由や根拠でためらうことなく実施されてきました。しかし、先の見えない今の時代、これでは通用しないのです。「何のためにもやるのか。誰のためにやるのか。」これまでの価値基準を自分の中で咀嚼し、確固とした自分の根拠をもって判断して、日々の教育に向き合わなければいけないのです。「働き方改革だから」という安易な言葉で片付けてはいけません。もし判断に迷った時は、目の前の子ども達の未来の姿を思い浮かべて考えてみてください。きっと答えが見つかるはずです。

今は正解のない時代と言われます。だからこそ失敗を恐れて躊躇するのではなく、色々なことに挑戦して道を拓いていって欲しいのです。同じ道を歩く人が増えていけばそれが道になるのですから。

